

## 9月7日(水)STBJ記者発表 報道紹介

TV: FNNニュース(CX)、 news every(NTV)、 ZERO(NTV)、  
テレ朝ニュース(ANN)、 おはよん(NTV)、 めざまし(CX)  
王様のブランチ(TBS)、など

Web: 朝日、 毎日、 産経、 東京、 サンスポ、 スポニチ、  
yahoo、 nifty、 biglobe、 など

asahi.com

○トップ ○ニュース ○スポーツ ○エンタメ ○ライフ ○ショッピング ○Astand ○トピックス

BOOK | 映画・音楽・芸能 | 舞台 | 囲碁 | 将棋

現在位置: asahi.com > エンタメ > 映画・音楽・芸能 > 日刊スポーツ芸能ニュース > 記事

2011年9月7日14時54分

トップ ニュース 映画 音楽 舞台 テレビ・ラジオ 芸能一般 マンガ+ コラム

4 B! 0 おすすめ

印刷

### 〈速報〉JOYが大使就任「すぐそばに結核はある」



ボランティア大使に任命されたJOY(撮影・荒木俊晴)

タレントJOY(26)が7日、都内で「ストップ結核パートナーシップ日本」が主催する結核予防週間の、ボランティア大使に任命された。

JOYは、今年3月に肺結核を患い、約3カ月間入院生活を送った。6月23日に復帰会見を行い、その後は体調と相談しながらレギュラー番組を中心に仕事を再開している。今回はその体験から、結核予防のボランティア活動として、大使就任を快諾した。

JOYは「知らない人も多いので、私をきっかけに、すぐそばに結核はあるんだよということを知ってほしい」とPR。現在は1日1回薬をのむだけの治療を続けている。結核は、世界で年間約940万人が発病し、1日に約4700人が亡くなる世界3大感染症のひとつ。国内でも約2万3000人が注意の必要な感染症で、最近では若者の結核感染が問題になっている。

[国内芸能](#)
[海外芸能](#)
[映画](#)
[音楽](#)
[ゲーム](#)
[すべてのエンターテインメントニュース](#)

## JOY、自らの結核発病体験を語る

 2011年9月7日(水)13時57分配信 [共同通信](#)
[チェック](#)
[いいね!](#)
[ツイートする](#)
0
[いいね!](#)

「ストップ結核ボランティア大使」就任会見が7日、東京・霞が関の厚生労働記者会見室で行われ、タレントのJOYが出席した。

結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本は、「ストップ結核ボランティア大使」にJOYを任命。JOYは結核発病体験を生かし、社会に向けて結核を減らす活動に、ボランティアとして貢献していく。

今年3月に発病し、3カ月の入院を経て、現在服薬治療中のJOYは「結核と診断されるまで、約8カ月かかった」と告白。「若い人は風邪だと思って、頑張ってしまうが、ちだが、早めの受診を心掛けてほしい」と訴えた。結核を発症した原因を自己分析した結果は「結核は空気感染。昨年、仕事が忙しく、不規則な生活で免疫力が低下したせいではないかと思う」とコメントした。

完治したらやりたいこと、を聞かれ「基礎体力が大事なので、ランニングやフットサル」と答えると、記者から“女の子と遊ぶのは?”と聞き返され「そりゃあ、誘われたらねえ、行くかもしれないですけど…、今、お酒をやめようと思っている。夜の外出はそんなにしないかな」と、遊びよりは体力回復を心掛けているようだ。



「ストップ結核ボランティア大使」に就任し、自身の結核発病体験を語ったタレントのJOY【[拡大](#)】

**期間限定**

**Diners Club INTERNATIONAL**

ダイナースクラブ  
フランス レストランウィーク特別協賛

9/1～ **先行予約** 承ります

最大**50,000**マイル  
相当ポイントプレゼント  
キャンペーン実施中!

[詳しくはこちら](#)

-PR-

社会 政治 経済

国際 スポーツ 話題

動画ニュース

アクセスランキング

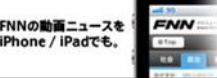
週間予定

バンコク支局

世論調査

アーカイブ

災害情報



天気予報

## 肺結核で休養していたタレント・JOYさん、「ストップ結核ボランティア大使」に就任



2011年3月、肺結核と診断され休養していたタレント・JOYさん(26)が、結核を予防する大使に就任し、会見を行った。JOYさんは「僕も結核による入院を経て、大変な経験をしました。1人でも多くの方に、この病気を知ってもらうために、貢献できたいなと思って」と話した。JOYさんが就任したのは、「ストップ結核ボランティア大使」で、現在、日本には2万3,000人余りの結核患者がいることから、今後、病気の正しい知識や、予防の方法を伝える活動を行うことになっている。JOYさん自身、2011年3月に肺結核と診断され、およそ3か月間、休養した経験があったため、今回の活動に賛同し、ボランティアで大使に就任したという。

(09/07 12:31)

# テレ朝 news

検索

9/9 金 今日の東京

ジャンルで探す:

TOP

社会

政治

経済

国際

スポーツ

芸能

### JOYが「ストップ結核大使」自身の経験生かし訴え (09/07 17:32)










タレントのJOYさんが結核の撲滅運動に乗り出しました。

タレント・JOYさん:「若い人もすごく結核多いです、お年寄りの人も、咳(せき)が止まらなかったり高熱が続く場合は、すぐ診断に行ってください」

「ストップ結核ボランティア大使」に任命されたJOYさんは、3月に結核と診断され、約3か月間入院し、現在も毎日、薬を服用しているということです。厚生労働省によりますと、去年、新たに結核と診断された患者は全国で約2万3000人に上ります。



2011年(平成23年)

9月9日 金曜日

今日の天気

東京



イーデザイン損保

自動車保険  
5万円以上の方、

新規でも  
ネット割10%

- [ニュース](#)
[トップ](#)
[注目](#)
[社会](#)
[政治](#)
[経済](#)
[国際](#)
[スポーツ](#)
[エンタニース](#)
[特集](#)
[ブログ](#)
[地](#)



## JOY 夢は写真週刊誌で熱愛スcoop?

< 2011年9月7日 22:35 >

ブックマーク [FB](#) [Twitter](#) [Print](#) [RSS](#) [Share](#)

タレントのJOYが7日、結核の早期発見などを啓発する「ストップ結核ボランティア大使」を務めることになり、東京・厚生労働省で行われた就任式に出席した。

今年3月から3か月間、“肺結核”の治療のため入院生活を送っていたJOYは「結核という病気を知らない方がたくさん世の中にいるので、一人でも多くの方に病気を知ってもらうために、貢献出来たらいいなと思う」と意気込みを語った。

6月に退院し、芸能活動を再開したJOYだが、久々の仕事には戸惑いがあったようで「最初の1か月くらいはJOY(というキャラクター)を忘れていた、自分はなんだったんだろうっていう。だんだん仕事をこなしていくうちに感覚が戻ってきた」としみじみ。

まだ完治はしておらず、夜遊びなどは控えているというJOY。記者から「(写真週刊誌に)撮られることもない?」と質問をされると、JOYは「可能性は無限大ですから。僕も撮られてみたいなものがありますから頑張ります」と冗談交じりに語った。

▲上へ

asahi.com

apital

- [トップ](#)
[ニュース](#)
[スポーツ](#)
[エンタメ](#)
[ライフ](#)
[ショッピング](#)
[Astand](#)
[トピックス](#)

現在位置: [asahi.com](#) > [ライフ](#) > [医療・健康](#) > [医療・病気](#) > [記事](#)

2011年9月8日 12時55分

[メール](#)
[Twitter](#)
[4](#)
[B!](#)
[1](#)
[おすすめ](#)

印刷 [Print](#)

## タレントのJOYさん、結核大使に就任 自身も治療中



「ストップ結核ボランティア大使」に就任したタレントのJOYさん

今年3月に結核と診断され、治療中のタレントJOY(ジョイ)さん(26)が7日、「ストップ結核ボランティア大使」に就任した。JOYさんは東京都内での記者会見で、「結核で苦しむ人を応援しつつ、一人でも多くの人に結核を知ってもらいたい」と語った。

昨年、新たに結核と診断されたのは全国で約2万3千人で、約3800人が39歳以下だった。

結核の予防を訴えるNPO「ストップ結核パートナーシップ日本」によると、39歳以下の患者は都市部に多いのが特徴という。「人混みなどで感染の機会が多いうえ、不規則な生活などで免疫力が落ち、発症しやすいのでは」とみている。

## 患者を生きる

最近のバックナンバー

# 感染症 JOYの結核:1 せき10カ月「まじ、やばい」

2011年11月4日

BI 印刷 チェック いいね!



JOYさんのせきは、昨年5月から始まった＝東京都中央区



「結核について知って欲しい」と話すJOYさん＝今年8月、東京都千代田区

タレントのJOYさん(26)が乾いたせきに気づいたのは、昨年5月のことだった。「せきだけ出て、おかしいな」。のどの痛みや熱もなく、体調も悪くなかった。

18歳の時、「ギャル男」が愛読するファッション誌「メンズエッグ」の読者モデルになった。芸能界にあこがれ、19歳で上京。5年以上続けていたが、それまで人気は出なかった。

転職は2009年2月。モデル仲間と、テレビのバラエティー番組に出演した。「雑誌で一番人気ないんすよ」と、自虐ネタやものまねを披露した。スタジオ中が沸いた。程なくして、芸能事務所入りが決まった。

大物司会者に小気味よく切り返すハーフのイケメンモデル。その秋から、次々と出演依頼が舞い込んだ。生活が一変し、半年が過ぎた。



1カ月ほどせきが続いたため、昨年6月、東京都内の耳鼻咽喉(いんこう)科クリニックを訪れた。鼻とのどをつなぐ上咽頭(いんとう)に炎症があり、薬を霧状にして吸入する治療を受けた。「のどを潤すように」と言われ、こまめにケアを続けた。

仕事は、ほとんど休みなく入っていた。多い日は、朝から3、4本の収録をこなし、そのまま徹夜でロケをした。食事は、テレビ局が用意する弁当か、コンビニ弁当が中心。疲れているときは食べなかった。

夏から秋、冬と季節が進むにつれ、せきの頻度が増えていった。のどに、いつも何か引っかかっているような感覚。息を吸うと、「ゲッホ、ゲッホ」とせき込んだ。

日中はマスクをつけ、収録中は、必死にせきをかみ殺した。足元にペットボトルの水を置き、カメラが外れると口に含んだ。話すことが仕事なのに声を出すのがつらかった。

[PR]

	<b>おいしいお肉が食べたい!</b> こんなお肉がこんなところで!? お肉の楽しみ方がたくさんある!
	<b>大人のお忍びデート</b> 大人だから似合う、入れるお店を どれだけ知っていますか? 雰囲気も楽しみたい方に
	<b>郷土料理ご当地メニュー</b> 今話題のご当地メニューが 食べられるお店、知っていますか?

広告特集 企画 朝日新聞社デジタルビジネスセンター

年末から、体のだるさが抜けなくなった。しっかり休もうと思っていた今年の正月。熱が出た。吐き気もした。1週間ほどで治ったが、数日すると、また熱が出た。「風邪がぜんぜん治らない」と思った。体力が、じわじわと奪われていった。

◇

「まじ、やばい」

2月下旬、大阪での収録の帰りに、マネジャーに伝えて都内の病院の救急外来に行った。ひどい寒気でふるぶると震えが止まらない。立っているのもやっとなで、「はあ、はあ」と息が上がった。頭痛もあった。インフルエンザを疑い、検査を受けたが、診断は「風邪」だった。日曜日に別の病院を訪ねたが、同じ診断だった。点滴を受け、翌日から仕事に戻った。

事務所のスタッフらに「大丈夫?」と聞かれると「ちょっとやばいっすね」と答えた。実際は、ちょっとどころではなかった。無性にイライラした。

代わりのいない仕事だとわかっていて。でも、体は限界だった。ツイッターでつぶやいた。「僕は自分自身がぶっ壊れてます。どうしたらいいですか?」

3月2日、午後11時ごろまでロケをした後、自宅近くの病院の夜間救急外来を訪ねた。当直の若い医師に症状を聞かれ、頭痛とのどの痛み、倦怠(けんたい)感、熱、せきがあると伝えた。「ずっと治らないんです」

その言葉が、医師口は引っかけた。風邪を引いた後に、せきだけが続くことは珍しくない。だが、何度もぶり返したり、長期間熱が続いたりするのは変だった。「経過が長いようなので、X線を撮ってみましょうか」。内心、「慢性の感染症かもしれない」と疑った。

X線とCT検査を受け、マネジャーらと待っていると、一人だけ診察室に呼ばれた。午前2時を回っていた。医師2人が、真剣な表情で座っていた。

パソコン画面に肺のX線写真を映し出しながら、医師が説明した。「肺に影が広がって、かなり進行しているようです。肺結核が疑われます。すぐに入院して下さい」

「なんだそれ」。ちょっと拍子抜けした。医師の表情から「もしかして、がんかな」と覚悟していた。結核という病名に、具体的なイメージがなかった。

「1、2週間ぐらい、仕事を休まなきゃいけないのかな」。そのときはようやく休めると、ホッとした。(鈴木彩子)

◇

じょい タレント、モデル。本名はジョゼフ・グリーンウッド。1985年、群馬県生まれ。父は英国出身、母は日本人。雑誌「メンズエッグ」(大洋図書)の読者モデルを経て、現在おバラエティー番組を中心に活躍する。日本テレビ系「心ゆさぶれ! 先輩ROCK YOU」などにレギュラー出演中。公式ブログ(<http://ameblo.jp/joy-story/>)を配信中。

患者を生きる

患者を生きる

[最新のバックナンバー](#)

## 感染症 JOYの結核:2 病巣広がり専用の病棟へ

2011年11月5日



体調が悪かった入院直前は、こんな姿勢でうずくまる時間が多かった [拡大](#)

今年3月、息が上がるほどの体調不良で、病院の救急外来を訪ねたJOYさん(26)は、X線検査で肺に影が見つかった。結核が疑われ、即日入院した。

たんや菌の遺伝子を調べ、数日後に「肺結核」と確定した。病巣は両肺に広がり、たんに含まれる結核菌の量も多かった。菌が体の外に排出され、他の人に感染させる可能性もあった。すぐに保健所が調査を始めた。

幸い、最も頻繁に接触していたマネジャーらへの感染はなかった。3月9日、自身のホームページで、病名と周囲への感染の心配がないことを伝えた。

入院直後から、結核菌を殺すための治療が始まった。4種類の抗結核薬を、昼食前の空腹時に飲む。「これを毎日続けるのか」と、初めはちょっと自信がなかった。頭痛や熱、せきを抑えるための薬も飲んだ。

薬を飲み始めて数日後、少しだけ体調が良くなった。身震いが治まり倦怠(けんたい)感も軽くなった。医師は「来月の誕生日までここは退院したいです」と話した。だが、たんにごまかす結核菌の量は減らず、熱やせきも続いた。

感染症科の主治医は「入院が長引きそうだと感じていた。病巣の広がりが、発病してからの時間の経過を物語っていた。

結核は、たんの検査で3回続けて菌が見つからなければ、他人への感染の恐れがなくなり、通院治療に切り替えられる。早ければ1カ月程度で退院できるが、数カ月間の入院が必要な人もいる。

この病院には結核病棟がなく、長期入院には対応が難しかった。主治医から転院を勧められ、3月下旬、1フロアが結核患者専用の病棟になっている都内の病院に移った。

転院後、病状はますます悪化した。薬を飲んでいるのに、肺の影は白さを増していった。38度台の熱が続き、夜になるとさらに上がって目が覚めた。頭痛もせきもひどかった。

頭痛と熱を抑える消炎鎮痛剤を飲む回数が増えていった。4月に入ると、目覚ましで朝5時に起き、6時間おきに薬を飲む生活が始まった。まったく熟睡できず、食欲もわかかなかった。

「ああこれ、やばい病気なんだ」。事の重大さが徐々に身に染みてきた。気づくと4月15日の誕生日を病室で迎えていた。





## 患者を生きる

[最近のバックナンバー](#)

# 感染症 JOYの結核: 4 僕の体験 役立てたい

2011年11月7日

B1      いいね! チェック 印刷

8月、ストップ結核ボランティア大使の就任会見に臨んだ＝東京都

東京都内の病院の結核病棟でふさぎ込んでいたJOYさん(26)は5月、開め切っていた病室のカーテンを開けた。少し前を向けた気がした。

それから、病室を出て、病棟内を歩くようになった。日の当たる部屋に行き、漫画を読んだ。売店にも行ってみた。「体を動かすのいいことですよ」と、看護師たちも声をかけた。

熱は相変わらず下がらず、頭痛も続いていた。でも少しずつ、快方に向かい始めていた。

5月下旬以降、3回続けて、たんじ結核菌がまざらなくなった。たんを培養しても、菌は生えないと確認できた。他人への感染の恐れがなくなり、6月8日、99日間の入院を終えた。

3カ月ぶりに戻る自宅には、うすすらホコリがたまっていた。数日かけて、家の大掃除をした。散らかったものを片づけ、洗濯をして衣替えもした。

体力は想像以上に落ちていた。家から300メートルほど離れたコンビニに行くだけで、疲れた。ひざや足の骨もきんだ。自宅の周りなどを歩いて、少しずつ体を慣らしていった。

6月半ば、公益財団法人結核予防会から「ストップ結核ボランティア大使」になってほしいと事務所に依頼があった。「どうする?」と尋ねるマネジャーに、二つ返事で引き受けた。

自分も結核のことは、全然知らなかった。「結核は身近にあるっていうことを、僕を見て、頭の片隅にとめておいてもらえたらうれしい」

2週間の療養期間を経て、6月下旬に仕事に復帰した。

退院後も、数カ月間は結核の薬を飲み続ける。体調がまだ万全ではなく、熱が出たり、頭痛がしたりする日もある。今は、病も笑いに換えながら、少しずつ、仕事を軌道に乗せている。

結核が悪化した一因は、自身にもあった。周囲に迷惑をかけたくない、我慢を重ねる。そういう考えはよくなかったと、今は思う。「体調崩して、結局何カ月も休んだら、元も子もないでしょ」。最近では、体がつらいときは、ためらわずに周囲に伝えている。

「頑張るのと無理するのは違うから」「大丈夫だろう」って先に延ばしても、良いことは待ってない。ブログでも、そんなメッセージを届けている。

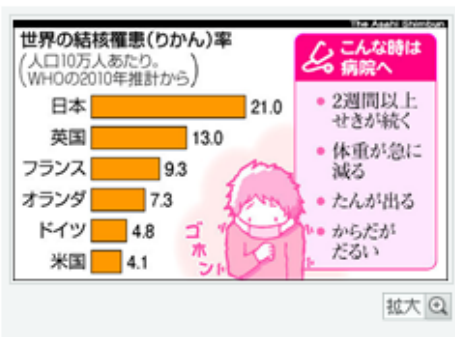
## 患者を生きる

● [最新のバックナンバー](#)

# 感染症 JOYの結核:5 情報編 長引く「風邪」は検査を

2011年11月8日

[B+](#)
[Twitter](#)
[Facebook](#)
[いいね!](#)
[チェック](#)
[印刷](#)



結核は過去の病気と思われがちだが、日本では、今年も年間2万3千人余りが新たに結核を発病する。結核が死因の1位だった戦後すぐに比べれば、死者数は60分の1に減った。だが、昨年2千人余りが亡くなった。

「結核は、目立たないけれど静かにこまやっている」と公益財団法人結核予防会の石川信克・結核研究所長は話す。新規発病者の半数は70歳以上だが、20～30代の若い世代も計15%いる。

結核菌が体内に定着した状態が「感染」だが、感染しているだけでは他人にうつらない。

感染後、免疫力の低下などで結核菌が増え始めるのが「発病」で、せきや熱などの症状が現れる。発病者のせきやたんを通じてうつる。

発病するのは感染者の1割程度。潜伏期間は人それぞれで、数十年たってから発病する人もいる。食事や睡眠、適度な運動など、健康的な生活を心がけることが予防につながる。

結核は、きちんと治療すれば治せるが、放置すれば命を落とす。自身の健康を守り、周囲への感染を防ぐためにも、早期発見・治療が大切だ。ただ、結核の初期症状はせきや微熱、倦怠(けんたい)感など、風邪と区別が付きにくい。受診が遅れたり、医師の診断が遅れたりする例も目立つ。

結核研究所疫学情報センターのまとめでは、働き盛りの30～59歳の肺結核患者で、発病から診断までに3カ月以上かかった人が3割弱いた。医療機関を受診してから1カ月以上、診断がつかない人も1割強いた。

診療指針の作成委員長、山岸文雄・千葉東病院院長は「診断の第一歩はX線検査。2週間以上せきが続くなど体に異変を感じたら、医師に『結核は大丈夫ですか』と尋ねてみて」と話す。

治療の基本は、6～9カ月間、抗結核薬を飲むことだ。一般的に、リファンピシンやイソニアジドなど4種類の薬を2カ月間、その後2種類に減らして4～7カ月間飲む。

薬は、必ず毎日飲まなければいけない。中途半端に飲むと、結核菌が再び増殖を始めたり、薬剤耐性菌が生まれたりする危険がある。退院後は、患者が薬の空袋を定期的に保健所に送るなど、飲み忘れていないかを確認する「地域DOTS(ドッツ)」という取り組みもある。(鈴木彩子)